

医学研究科・医学部未来プラン

～人の優しさと未来を育む医学部・医学研究科～

世界トップレベルの特色ある研究を推進します

・プロジェクト推進型の組織による研究体制の改革

(未来プラン：Ⅰ－2) [期間：ⅱ]

【未来像】

新たな研究センターを設置し、本医学研究科の特色ある研究を世界トップレベルで推進します。

【課題】

- 研究センターとして特色があり、かつ、高度な水準の研究領域を設定し、明確な研究目標を掲げることが必要です。
- 研究センターの組織・運営方法を決定し、外部評価委員会等を設置することが必要です。
- 研究センター運営のための資金が必要です。
- 既存の組織にとらわれず、新たな視点からの組織編成や機能分担が必要です。

【進め方】

- 研究センター設置委員会（仮称）を設置し、医学研究科としての位置づけと役割、研究目標、構成員、戦略・方針等を決定します。
- 医学研究科全体との良好な連携体制、共同研究体制を確立します。
- 大型外部資金獲得に努めます。
- 国際的な共同研究を推進します。

・共同研究教育施設の改革による研究環境の充実

(未来プラン：Ⅲ－4) [期間：ⅰ～ⅱ]

【未来像】

世界水準の研究を実践する研究機関に相応しい機器設備の計画的導入と効率的な予算運用等によって研究設備の充実を図ります。また、全学共同利用化に向け、大学本部をはじめ、学部・研究科間の連携を進めます。

【課題】

- 機器設備の計画的導入が可能となるような抜本的な予算編成の変更が必要です。
- 全学共同利用化に向けた規程や手続きを定めることが必要です。
- 共用機器の外部貸出しなど外部資金の獲得のための規程の整備が必要です。

【進め方】

- 第二期中期計画期間においては、医学研究科共同研究教育センターについて、予算配分の独立化を検討し、維持経費の見直しを含む効率的な予算運用により設備の充実を進めます。
- 世界レベルの研究を持続的・安定的に実践するため、次期中期計画から計画的な施設・機器整備が可能となるよう、共同研究教育施設の予算編成における抜本的な変更を検討します。
- 全学研究施設運営会議（仮称）等において、施設・設備の共同利用に係る規程や運用方法を検討します。

・学部、研究科間を越えた連携による研究の推進

(未来プラン：Ⅰ－９、Ⅲ－１) [期間：ⅱ]

【未来像】

医学・薬学・看護学のみならず医工学、医療経済学および医療心理学などの領域横断的な教育・研究を推進します。多職種が協働して実践する未来型医療の視点を持つ人材を育成し、創造的な医学研究を展開する基盤をつくります。

【課題】

- 学部、研究科間の連携による新たな教育・研究領域の創出が必要です。
- 本学の特徴および医学研究科の特色を生かした医学研究と未来型医療に向けた学部・研究科横断的な連携および医学部附属病院との協働体制の確立が必要です。

【進め方】

- 経済学研究科博士前期課程に設置される「医療経済マネジメントコース」におけるカリキュラムに協力します。また引き続き、博士後期課程におけるコース設置に向けた検討に協力します。
- 芸術工学研究科や名古屋工業大学との医工連携を推進し、医学研究科大学院におけるコース設置を検討します。
- 人間文化研究科および看護学部と協働し、医学部附属病院および関連医療機関での医療心理学の実践と学際的な研究を担える人材を育成する医療心理センター（仮称）の設置に協力します。
- 薬学研究科、看護学部、人間文化研究科、経済学研究科、さらには附属病院と連携し、共同研究拠点として認定を受けた不育症研究センターにおけるさらなる研究を推進します。

・研究者の能力向上を基盤とした研究活動の活性化

(未来プラン：Ⅷ－３) [期間：ⅲ]

【未来像】

流動性ある人事を推進し、優秀な若い人材を集めます。

個々の研究者の能力が向上するような環境を整え、活発な研究を推進します。

【課題】

- 「世界トップレベルの研究」を推進する体制に対する共通認識が必要です。
- 人材の流動性を高め、かつ、優秀な人材を集めるための方策が必要です。

【進め方】

- 世界トップレベルの研究推進を実現するための教員評価法および任期制度の見直し・改革を検討します。
- PDCA サイクル（※１）の積極的な導入による人材育成制度を確立します。
- 中央省庁等に積極的に人材派遣を行います。

※１ 「PDCA サイクル」…Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Act（改善）の手順を繰り返すことによる業務改善手法

優秀な医療人を輩出するため総合的な人材育成システムを構築します

・附属病院・連携病院との協力による卒前・卒後までの総合的な人材育成システムの構築

(未来プラン：Ⅱ－3) [期間：i～ii]

【未来像】

卒前から卒後まで総合的な人材育成システムを構築し、優秀な医療人を輩出する学部となります。

【課題】

- 入学から卒後専門医研修までを追跡する同窓生データベースが必要です。
- 教育を専任で担当する教員の増員が必要です。
- 連携病院との協力による卒前・卒後（特に専門医育成）教育の充実が必要です。
- 附属病院との卒後教育に関する連携を強化することが必要です。
- 卒前のキャリア支援機能の強化が必要です。

【進め方】

- 入学から卒後専門医研修までを追跡する同窓生データベースを構築します。
- 附属病院・連携病院との協力（寄附講座など）により、教育を専任で担当する教員を増員します。
- 東部・西部医療センターとの協力により卒前教育の改善を行います。さらに、専門医育成に関わる卒後教育システムを構築します。
- 附属病院総合研修センターと協力し、ともに構築したデータベースの解析を行い、これまで行ってきた卒前教育を改善し、卒後研修に連携した教育システムとします。
- 卒前のキャリア支援部門を附属病院総合研修センターと合同で設置し、学生のキャリア支援を卒前から行います。
- 模範となる卒業生による講義や討論の場をカリキュラムに組み入れ、特に女子学生のキャリア支援を強化します。

・医学教育認証評価制度を踏まえた教育システムの整備と認証評価の受審（未来プラン：Ⅱ－3）[期間：ii]

【未来像】

国際認証に適合したカリキュラムでグローバルスタンダードに則る医学教育を行い、世界で活躍する医師を育成します。

【課題】

- 臨床実習期間の延長と東部・西部医療センターと協力した教育体制の整備が必要です。
- 学生が主体的に学習するカリキュラムの導入が必要です。

【進め方】

- 新カリキュラムを完成し、国際認証を受審します。
- 学生が主体的に学習する授業の実施に向けた教員研修を行います。
- 東部・西部医療センターと合同の臨床実習プログラムを推進します。

・高大接続による新たな入試制度の構築

(未来プラン：Ⅱ－3、Ⅳ－6) [期間：ii]

【未来像】

優秀な医療人となりうる学生が集まる入試制度を構築します。

【課題】

- 入学試験から卒業・国家試験合格、さらにはその後の活躍までを追跡し、現行の入学試験制度を検証することが必要です。
- 2020年度導入予定の新入学試験制度への対応が必要です。

【進め方】

- 同窓生データベースを分析し、入学試験のあり方を検討します。
- より良い学生を集めるべく、新入学試験制度への対応を検討します。

・大学院教育の国際化対応

(未来プラン：Ⅱ－5、Ⅴ－1) [期間：ii]

【未来像】

グローバルな人材の育成を目指して国際化を推進します。

【課題】

- 国外（外国人および国外の日本人）から応募しやすい環境を提供することが必要です。
- 教員の意識改革を促し各講義の特性に合わせて英語化を進めることが必須です。
- 大学院修了後のキャリアパスモデルを明確に示すことができる修学・就業支援システムが必要です。

【進め方】

- 2015年から秋入学を始めます。
- 海外からの留学生の経済的支援の充実を図ります。
- 日本語および英語での情報発信、入試問題、シラバスなどの整備を確実に進めます。
- 英語での講義を設定しグローバルな人材の育成を進めます。
- キャリア支援センターとの連携を強化し、進学・就職支援を充実させます。

・大学院医薬学総合研究科（仮称）への発展

(未来プラン：Ⅱ－2) [期間：ii～iii]

【未来像】

医学研究科と薬学研究科の大学院を統合し、大学院医薬学総合研究科（仮称）に再編成します。

医薬共同研究推進室（仮称）を設置し、定期的な医薬合同リサーチ会議（仮称）の開催など、大型資金獲得に向けた取り組みを戦略的、かつ、継続的に推進します。

【課題】

- 学部・研究科・大学の枠を越え、共通教育科目の導入など教育体制の整備が必要です。
- 大学院進学率を向上させる必要があります。

【進め方】

- 「大学院医薬学総合研究科（仮称）」の設置準備を進めます。
- 研究科をまたいだ研究室間の交流を積極的に増やし、お互いを理解しつつ新しい可能性を探ります。
- 優秀な大学院生を確保するために魅力的な研究テーマを提案します。
- 新専門医制度下における博士課程のあり方を検討し、大学院への進学率を高めます。

【未来像】

医学研究を志向する学生に早期から研究の機会を提供し、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手基礎医学研究者を育成します。

【課題】

- 若手基礎医学研究者が活躍できる研究環境を整えることが必要です。
- 早期から研究者を育成するという本制度の利点を生かした教育システムを確立し、教育内容を充実することが必要です。

【進め方】

- 長期的視野の下、人材育成の新たな仕組みを構築し、学位取得後も研究の継続が可能となるような体制を作ります。
- 学習到達レベル評価指標（仮称）の策定により、研究者としての成長段階に応じた自己評価を実施し、指導体制をより一層充実させます。
- 医学研究を志向する学生が集う全国リトリートへの参加や海外協定校との交流を積極的に進め、内外の研究者との交流を早い段階から促進します。

【未来像】

学生が集う学習の場を整備し、心豊かでグローバルな感覚を身につけた「学び続ける医療人」を育成します。

【課題】

- 学生が集う学習の場の整備が必要です。
- 国際感覚を身につけられる学習支援体制の充実が必要です。
- 医療人として全人的な素養を身に付けることが必要です。

【進め方】

- 全学的な教養教育の充実に協力します。
- 医学部同窓会と連携した寄附活動などを含め、キャンパスの緑化や講義室の改装など現状で可能な学習環境整備を進めます。
- 心豊かな医療人育成のための学習環境の基軸となる桜山キャンパスの総合整備を、設置者の名古屋市に対し支援を求めています。
- 協定校との学部生および大学院生の国際交流をより一層深く進めていきます。

最先端の医療研究を推進し、高度で先進的な医療を提供します

・病院機構改革と協働した臨床医学分野の組織強化

(未来プラン：VI-1) [期間：ii]

【未来像】

市民および社会の医療ニーズの変化に対応した高度急性期医療を安定的に提供するため、臨床医学分野の組織強化を図ります。

【課題】

- 変化に対応するために柔軟性のある人事・組織制度が必要です。
- 計画的で効率的な施設整備が必要です。

【進め方】

- 医学研究科と附属病院で構成する機構改革検討委員会で協議を進め、分野および関連する病院組織が、より機動的に運営できるように組織・人員体制を再編成します。
- 職位・称号などを見直し、人事制度の整理を進めます。
- 「サクラ咲くプラン」にもとづき、安定的かつ戦略的な病院経営を推進します。

・最先端の医療研究の推進

(未来プラン：VI-3) [期間：ii]

【未来像】

医学研究科と附属病院が協力し、最先端の医療研究を推進し、高度で先進的な医療を提供します。

【課題】

- 臨床研究を進めるための組織・設備の強化が必要です。
- 倫理審査体制と臨床試験管理体制の強化が必要です。
- 基礎研究を臨床医学に応用するための体制の整備が必要です。

【進め方】

- 医学研究科と附属病院の倫理審査体制を強化し、先進的な医療を安全に提供する環境を整えます。
- 臨床研究中核病院を目指し、臨床試験管理センターの強化に協力します。
- 医療デザイン研究センターの強化や先端医療技術イノベーションセンター（仮称）の設置により、新たな医療機器の開発や医療技術の向上に取り組みます。

研究成果を社会に還元し、市民の健康と福祉の向上に寄与します

・地域包括ケアへの協力

(未来プラン：Ⅳ－3、Ⅳ－7) [期間：ii]

【未来像】

名古屋市健康福祉局の方針を踏まえ、地域の実践研修フィールドを活用し、質の高い地域包括ケアを継続的に提供できる医療環境の構築に協力します。

【課題】

- 本学が地域医療に真剣に取り組んでいることをもっと市民にアピールすることが必要です。
- 未来医療研究人材養成拠点形成事業終了後の「なごやかモデル」継続実施体制の整備が必要です。

【進め方】

- 名古屋市等と協力の上、「なごやかモデル」の継続実施に向け検討します。
- 「なごやかモデル」を継続して担当する組織を医学研究科内に早期に整備します。

・名古屋市教育委員会と連携した高大連携教育の推進

(未来プラン：Ⅳ－5、Ⅳ－6) [期間：ii]

【未来像】

大学と高校との連携を深め、学生および教員の相互交流を通じて理科教育の充実に貢献するとともに、高大接続の理想的な制度設計を追究していきます。

【課題】

- 研究体験等をはじめとする高校との連携事業を持続可能な取り組みとすることが必要です。
- 国の方針を踏まえ、理想的な高大接続の制度導入に向け医学研究科内での理解が必要です。

【進め方】

- 名古屋市教育委員会からの支援の継続を求めています。
- 持続可能な実施体制を構築するため、連携事業の内容の充実や実施時期の検討を行います。
- 教育委員会が進める施策にもとづく高大接続の導入に向け、医学研究科と高校の教職員との情報交換を行い、相互理解を進めます。

・公開講座の一本化による「学びなおし学部（仮称）」の設置

(未来プラン：Ⅱ－7) [期間：iii]

【未来像】

研究科・学部ごとの公開講座を一本化して学びなおし学部（仮称）の設置を目指します。

【課題】

- 様々な修学意欲に対応できる幅広い科目の設定が必要です。
- 本学が持つ各学部・研究科の特徴を生かした仕事に役立つ講義が必要です。
- 受講のアウトカム（到達目標）と就業への方向性（キャリアパス）を明確に示すことができるカリキュラムの提供が必要です。

【進め方】

- 受講者のニーズに対応したカリキュラムを充実させます。
- 各学部・研究科の連携により多様な履修パターンを提供します。
- 広報を充実させ受講希望者が情報にアクセスしやすい環境整備に努めます。
- キャリアパスの実例を蓄積し受講者の就業に役立てます。
- 実績を整理し競争的外部資金申請への即応体制を構築します。

期間について

- i : 1年以内を実現させる事項
- ii : 今後3年間（平成29年度末まで）に実現させる事項
- iii : 今後7年間（平成33年度末まで）に実現させる事項
- iv : 15年後を見すえながらながら実現に向けて取り組む事項